

「身寄りのない方への支援」に関する課題意識

アンケートの結果、大多数の方が「身寄りのない方への支援」に強い課題意識をお持ちであることがわかりました。具体的な意見を整理すると、以下の5つのポイントに集約されます。

1. 医療・介護における意思決定と支援

入院・入所時の契約や、治療方針の決定、退院先の調整など、本人の意思決定が困難になった際にどう対応するかという課題が最も多く挙げられました。特に、身寄りがいないことで、必要な医療や介護サービスが受けられないケースや、支援が滞り社会的入院につながってしまうケースも少なくないという声が目立ちました。

2. 多職種連携の重要性と難しさ

身寄りのない方の支援には、行政や医療、介護など、様々な機関が連携する必要があるという意見が多くありました。一方で、支援者が孤立し、支援が困難になる状況も指摘されています。支援者と本人の双方が無理なく暮らしていくためには、「顔の見える連携」を通じて、関係機関がそれぞれの役割を分担する体制づくりが必要だと考えられています。

3. 制度と支援体制の課題

成年後見制度の利用増加や、施設などの受け入れ先が限られている現状について言及がありました。また、生活保護受給者ではない方への支援が非常に悩ましいという意見や、「自立した生活が送れなくなる前に準備が必要だが、現場では困難なことが多い」という課題意識も共有されています。支援する側が安心できる仕組みの必要性も指摘されています。

4. 支援者の負担と今後の展望

身寄りのない方への支援は、際限のない手間や時間が求められ、支援者の負担が大きいという声がありました。一方で、少子高齢化や結婚率の低下から、今後さらに身寄りのない方や独居の方が増えていくことが予想されています。そのため、支援する側の慢性的な人手不足も相まって、地域でどのように支えていくかを考える必要性を感じている方が多くいらっしゃいました。

5. 相談機関としての役割

ケアマネジャーなど、特定の相談機関に緊急時の対応などが集中してしまう現状を課題として捉える意見がありました。薬剤師の方からは、普段の業務で患者さんの本当の気持ちに気づきにくい現状が挙げられ、それぞれの職種がどのように関わっていくべきかという視点も示されました。

皆さまから寄せられたご意見は、当日の研修会の貴重な資料となります。それぞれの専門分野から見た課題意識や、現場で感じている悩みなどを共有し、より良い支援のあり方について一緒に考えていきたいと思います。